

**[成果情報名] 「させぼ温州」高接ぎ樹の収量特性**

**[要約]**「させぼ温州」高接ぎ樹の収量は高接ぎ後8、9年目まで増加し、10aあたり積算収量も苗木植栽と比較して高接ぎ後8年目まで多い。また、高接ぎ後13年目以降になると2S級果以下の比率が15%以上となる。

**[キーワード]** させぼ温州、高接ぎ樹、苗木、収量

**[担当]** 農林技術開発センター・果樹・茶研究部門・カンキツ研究室

**[連絡先]** (代表) 0957-55-8740

**[区分]** 果樹

**[分類]** 指導

**[作成年度]** 2017年度

---

**[背景・ねらい]**

「宮川早生」の枝変わりとして発見された「させぼ温州」は、高接ぎおよび苗木植栽により産地への導入が積極的に進められてきた。高接ぎ樹および苗木植栽による収量特性については、他の品種と同様に生産者および技術者に経験的に理解されているものの、データ等に基づく検討事例は少ない。そこで、本研究部門場内の収穫データを収集し検討する。

**[成果の内容・特徴]**

1. 高接ぎ樹の1樹はあたり収量(2ヵ年平均)は接木後8、9年まで増加し、その後は横ばいで推移する。また、接木後10、11年目以降は苗木を植栽した場合と同程度となる(表1)。
2. 高接ぎ樹の隔年結果指数は結実期間を通じて苗木を植栽した場合と比較して低いもしくは同程度で推移し、特に高接ぎ後15年目以降は同程度となる(表1)。
3. 高接ぎ樹の10aあたり積算収量は高接ぎ後8年目までは苗木植栽と比較して多いが、それ以降は同程度となる(表1)。
4. 結実期間のうち2S級果以下の比率が15%以上になる年は、苗木植栽の2ヵ年に対して高接ぎ樹では8ヵ年あり、高接ぎ後13年目以降になるとすべての年で15%以上となる(図1)。

**[成果の活用面・留意点]**

1. 1999年4月に高接ぎ(中間台:10年生「青島温州」)および2年生苗を植栽し、農技セ果樹・茶研究部門内でシートマルチ栽培した樹を供試した。
2. 計画的な改植計画を策定するうえで活用できる。

[具体的データ]

表1 「させば温州」高接ぎ樹および苗木植栽における収量

		接木・植栽後年数														
		2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16
1 樹あたり 収量(kg) (隔年結果指数 <sup>2</sup> )	高接ぎ	8.6	26.9	26.9 (0.7)	26.1 (0.3)	25.0 (6.1)	18.1 (21.9)	31.7 (7.8)	36.1 (1.1)	39.0 (13.1)	23.8 (19.3)	31.4 (8.7)	29.0 (2.3)	29.3 (10.5)	43.4 (10.9)	40.4 (10.4)
	苗木		15.6	14.8 (1.5)	13.1 (11.2)	18.0 (12.4)	15.0 (18.9)	26.0 (24.2)	16.7 (27.3)	32.5 (22.0)	24.9 (15.8)	36.0 (22.3)	20.9 (28.9)	39.7 (20.2)	31.8 (11.0)	39.5 (10.3)
2ヶ年 平均収量	高接ぎ	17.8			26.5		21.6		33.9		31.4		30.2		36.3	
	苗木				13.9		16.5		21.3		28.7		28.4		35.7	
有意差 <sup>3</sup>					*				*							
10aあたり 収量(t)	高接ぎ	1.1	3.4	3.4	3.3	3.1	2.3	2.0	2.3	2.5	1.5	2.0	1.8	1.8	2.7	2.5
	苗木	—	2.0	1.9	1.6	2.2	1.9	3.2	2.1	4.1	3.1	4.5	2.6	5.0	4.0	2.5
積算	高接ぎ	1.1	4.4	7.8	11.1	14.2	16.4	18.4	20.7	23.2	24.7	26.6	28.5	30.3	33.0	35.6
	苗木	—	2.0	3.8	5.4	7.7	9.6	12.8	14.9	18.9	22.1	26.5	29.2	34.1	38.1	40.6
有意差 <sup>3</sup>			*	*	*	*	*	*	*							

10aあたり収量については高接ぎおよび苗木ともに125本/10a植栽(2.0×4.0m)とし、高接ぎ樹は接木後8年目、苗木は植栽後16年目に間伐(63本/10a)を行っ

<sup>2</sup>当年、前年および翌年の3ヶ年の収量から算出

$100 \times (((\text{当年収量} - ((\text{前年収量} + (\text{当年収量} \times 2) + \text{翌年収量})) / 4)) / (((\text{前年収量} + (\text{当年収量} \times 2) + \text{翌年収量})) / 4))$

<sup>3</sup>\*はt検定で5%水準で有意差あり

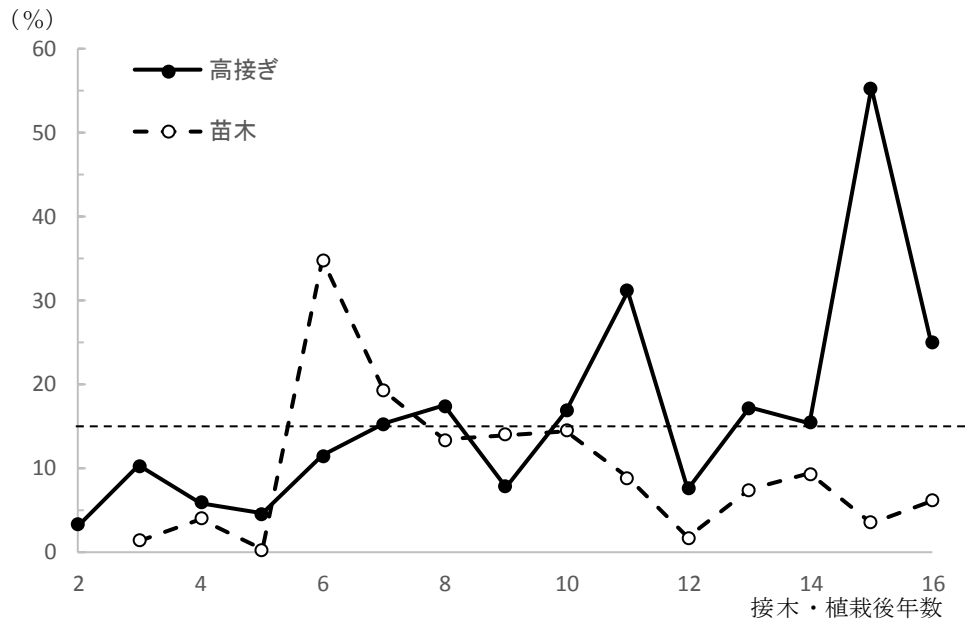


図1 接木・植栽後年数と2S級果以下の割合

[その他]

研究課題名 : 新長崎ミカン「長崎果研させば1号」の未収益短縮システムの確立  
 予算区分 : 県単  
 研究期間 : 2017年度  
 研究担当者 : 石本慶一郎、荒牧貞幸、田中加奈子、古川忠